メンバーズインタビュー

組合員紹介 No.10

有限会社 三浦製材所

地域の他業種仲間が手を組み、ワンチームとなって、幅広い仕事を受注し、共存共栄を図る。

他業種のネットワークのメンバー（写真手前中央が三浦社長）

どんな事業をされていますか？

当社は製材業であり、原木を仕入れて挽き、天然乾燥後にモルダー仕上げをして、大工に出荷している。
創業は大正期で、自分で3代目、今は長男が4代目の社長をしている。
製材以外にも、増改築やリフォーム工事を依頼されることもあり、木材の供給は当社で行い、工事は知り合いの大工に任せる。扱う材は、大井川流域のスギやヒノキが多く、新築4～5棟の部材は常時、ストックしている。出荷すれば、その分を補充し、急な注文にも対応できる体制をとっている。仕入れ販売するのは間柱くらいで、ほとんどの材は自ら製材して納めている。
また土木関係の材として、コンクリート打設工事に使う桟木や足場の転落防止用の板なども供給している。

木造倉庫と天然乾燥材の置場

多種類の部材を天然乾燥させる

天井の木架構が目を引く倉庫内

事業の特長や強みは何ですか？

今も昔ながらの天然乾燥にこだわっている。それは木材に油分が残り、色艶に優れ、5年、10年経っても、光沢が残り、水をはじくからだ。ただ、乾燥に伴って生じる木材の割れや曲がりに対処できるように、かなり大きめに挽く必要がある。
当社には使い慣れた製材機があるので、顧客の多様な要望に応えられる。スギやヒノキ以外にも、ヒメシャラ、イチョウ、ケヤキなど珍しい樹種が原木市場に出ると買い付けることもある。在庫として保管しておくと、それを目にした顧客から化粧材や家具の天板などに使いたいといった注文が入ることもある。

代表的な製品、サービス、設備などは？

製材機を2台保有しているが、平成元年に帯鋸、テーブル、台車に手を加え、二人必要だった操作が一人でできるようにした。当時はワンオペレーションの機械は画期的だった。職人の高齢化が進み、人手不足もあっての対策だった。
当社はサービスについても重視しており、自社を製材業というワクにはめずに、顧客の困りごとを解消するサービス業であるととらえている。地域の他業種の仲間の力を借りて、自社で木材を提供しつつ、様々な建築や工事にスピーディーに対応できるネットワークを築いている。

今後の展望をお聞かせください。

私が社長だった頃も、同世代の仲間へ声を掛け合いながら仕事を回していったが、今の社長である息子は私以上に他業種の仲間とのネットワークづくりに注力している。設計士、大工、足場工事、造園、塗装、電気工事、左官、板金など、仲間の職種も多様で、互いに協力し合えば総合建築業のような対応力が発揮できる。
最近は評判を耳にして、県内だけでなく、関東や関西エリアからも仕事の依頼がくるようになった。メンバーは30～40代と若く、仲間内で仕事を回していけるので、共存共栄を図りながら、ともに未来へ歩むことができると思う。

使い込まれた機械が並ぶ製材工場

インタビューに答える
現社長の父親である
三浦定義 取締役

取材日：令和6年11月13日

木材を多用した住宅をグループで建築

掛川木材協同組合
有限会社 三浦製材所
代表取締役　三浦健太
静岡県掛川市日坂12
TEL. 0537-27-1021　FAX. 0537-27-0570
Mail：miura.swing@gmail.com
創業：1921年
事業内容：製材業、リフォーム業
従業員数：２人
年間売上高：１億円（令和5年度）

発行：静岡県木材協同組合連合会